

第5章 2. イスラーム世界の発展 a.イスラーム帝国の分裂と西方イスラーム世界

アッバース朝に敗れたウマイヤ朝の一族は西に逃れ、756年[1 **イベリア**]半島(スペイン)に後ウマイヤ朝をたてた。(首都[2 **コルドバ**])。かれらは10世紀になると[3 **カリフ**]を自称、西カリフ国ともよばれた。これ以後、ヨーロッパ大陸の西端のイベリア半島にはおもに北アフリカ[4 **マグリブ**]地方に拠点をおくイスラームの遊牧民([5 **ベルベル**]人)が進出、15世紀末まで[6 **キリスト**]教徒による[7 **国土回復(レコンキスタ)**]運動と戦い続ける。なお現在グラナダにのこる[8 **アルハンブラ**]宮殿は当時のスペイン=イスラーム文化の代表的建築物である。

ベルベル人はイベリア半島へ進出するとともに[9 **サハラ**]砂漠を越えた[10 **黄金**]を中心とする交易網を築きアフリカ内陸へのイスラーム教の布教をすすめた。

① 756年イベリア半島で[11 **後ウマイヤ**]朝(西カリフ国)成立→以後イスラーム国家が続く(スペイン) 首都[12 **コルドバ**]

マグリブ地方(モロッコ、アルジェリア、チュニジア)=[13 **ベルベル**]人の改宗

日の沈むところ マグリブ地方の遊牧・通商民→14 **サハラを横断する交易に従事**

・[15 **ムラービト**]朝→[16 **ムワッヒド**]朝→ナスル朝

首都マラケシュ 首都マラケシュ

ア)イベリア半島進出→キリスト教徒の[17 **国土回復運動**](レコンキスタ)と戦う

* 国土回復運動…18 **キリスト教徒がイスラーム教徒からイベリア半島を奪い返そうという運動**

イ)アフリカ内陸にイスラームを伝える→[19 **ガーナ**]王国を滅ぼす。

→マリ王国・ソングアイ王国というイスラーム国がつづく

スペイン=イスラーム文化の発達→[20 **アルハンブラ**]宮殿(グラナダ)

→[21 **トレド**]大学などを通じ、イスラーム文化を中世ヨーロッパに伝える

10世紀初、チュニジアで[22 **シーア**]派の[23 **ファーティマ**]朝が成立、アッバース朝と対立して東方に進出、[24 **エジプト**]を征服、首都[25 **カイロ**]を建設した。この王たちはカリフを自称したので[26 **中カリフ**]国と呼ばれる。

こののち、この地域は西ヨーロッパ勢力による[27 **十字軍**]との戦いの中心となった。こうしたなか、イスラームの英雄[28 **サラディン**]が12世紀中期に建てたのがスンナ派の[29 **アイユーブ**]朝である。十字軍の遠征を最終的に破り、アッバース朝を滅ぼした[30 **モンゴル**]人の侵入を退け、イスラーム世界の中心となったのが13世紀中期に成立したトルコ系の[31 **マムルーク**]朝である。

②10世紀、チュニジアに[32 **ファーティマ**]朝成立([33 **シーア**]派) **ムハンマドの娘ファーティマの子孫と自称** ↓ **とくに過激** エジプトに進出、首都[34 **カイロ**]を建設、カリフと称す(中カリフ国)

エジプトのイスラーム王朝

10世紀	12世紀	13世紀
[35 ファーティマ]朝→	[36 アイユーブ]朝→	[37 マムルーク]朝
シーア派・カイロ建設	英雄サラディンが建国	トルコ系・モンゴルと戦う
	十字軍と戦う	カリフを保護

・[38 **アズハル**]学院…ファーティマ朝が建設、イスラーム学を中心となる

b. 東方イスラーム世界とトルコ人の活躍

[39 **モンゴル**]高原を原住地とする遊牧民族[40 **トルコ**]人は中国諸王朝とたたかいながら、東西交通路の中心[41 **タリム盆地**]へと進出、しだいに定住化していった。

9世紀以来、アッバース朝カリフは[42 **マムルーク**]とよばれる[43 **トルコ**]人奴隷を親衛隊として用い、しだいにイスラームの軍事力の中心を[44 **トルコ**]人がしめるようになっていった。エジプトの[45 **マムルーク**]朝やインドの奴隷王朝も彼らが建てた王朝である。

他方、トルコ人の中央アジア進出がすすみ、中央アジアは[46 **トルキスタン**](トルコ人の土地)と呼ばれるようになっていった。トルコ人は10世紀中期以降[47 **イスラーム**]化がすすみ、10~12世紀、トルキスタンでは[48 **カラハン**]朝が、アフガニスタンでは[49 **ガズナ**]朝が栄えた。

- ①9世紀以降、アッバース朝、[50 **トルコ**]人奴隷出身者を軍人に採用([51 **マムルーク**]) →10世紀以降、イスラームの軍事力の担い手=[52 **トルコ**]人に
- ②751年 [53 **タラス河畔**]の戦い以降、イスラーム勢力、トルキスタン進出本格化 →9世紀のサーマン朝(イラン系)の西トルキスタン支配以後、[54 **トルコ**]人の改宗進む →10世紀 [55 **カラ=ハン**]朝(~12世紀)の東西トルキスタン支配により決定的に
- ③アフガニスタン……[56 **ガズナ**]朝(10世紀~12世紀)→北インドに侵入

10世紀中央アジアで成立した[57 **トルコ**]人の[58 **セルジューク**]朝は勢力を拡大、1055年にはバクダッドへ入城、アッバース朝カリフより[59 **スルタン**]の称号を獲得、イスラームの実質的支配者となり、[60 **ビザンツ**]帝国領であった小アジアにも侵入、キリスト教徒と対立、[61 **十字軍**]の原因をつくった。また宰相ニザーム=アルムルクは領内各地に[62 **ニザーミーヤ**]学院を建設、イスラーム教の官僚を養成した。

- ④[63 **セルジューク**]朝トルコ([64 **スンナ**]派)=10世紀末 中央アジアでトルコ系の部族が建国 ↓
- ・[65 **1055**]年 バクダッドへ入城、アッバース朝カリフより[66 **スルタン**]の称号を獲得 →中央アジア・西アジア支配、小アジア進出→[67 **ビザンツ**]帝国と対立=[68 **十字軍**]発生
- ・宰相ニザーム=アルムルク、各地に学院(マドラサ)([69 **ニザーミーヤ**]学院)を設立 →神学と法学を研究・イスラーム官僚を養成